

WEEKLY SIGNAL

2020年5月29日(金) 1526号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	6/1(月)	6/2(火)	6/3(水)	6/4(木)	6/5(金)
無担保O/N			△ 0.087%	～ 0.001%	
銀行券	△ 100	+ 1,000	+ 1,000	ト ン	ト ン
財政他	△ 76,000	+ 2,000	△ 72,000	+ 2,000	△ 7,000
資金需給	△ 76,100	+ 3,000	△ 71,000	+ 2,000	△ 7,000
主な要因	国債発行・償還(2年) 国庫短期証券発行(3M・6M) 国庫短期証券償還(6M)		法人税・消費税・保険揚げ 普通交付税 国債発行(10年)		国債発行(30年)
オペ期日	補完供給 + 100		成長基盤 △ 6,100		
オペスタート	国債買入 + 8,700		成長基盤 + 2,000		
(日本)	設備投資(1Q)	マネターベース(5月) 営業毎旬報告(5月31日現在)			景気先行CI指数(4月) 景気一致指数(4月)
(海外)	米 ISM製造業景況指数(5月)	ユーロ圏製造業PMI(5月)	米 ADP雇用統計 米 ISM非製造業総合景況指数 ユーロ圏 PPI(5月)	米 新規失業保険申請件数 (5月30日終了週) 米 貿易収支 ユーロ圏 ECB政策金利発表 ラカド総裁記者会見 ユーロ圏 総合PMI(5月)	米 雇用統計(5月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.060 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.040
SPOT 3M	0.000 ~ 0.070
SPOT 6M	0.000 ~ 0.130

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は、週初418兆700億円から始まった。その後は26日・28日29日には財政等要因により大幅に増加、27日には国庫短期証券買入オペの影響で増加し、427兆1,400億円(速報)で越えた。
今週の無担保コールON物は週を通して軟調な動きとなった。同加重平均金利は週初25日から28日まで△0.060%～△0.057%で推移した。月末29日は一部業態で調達を抑える動きが見られ、同加重平均金利が△0.073%まで低下した。
ターム物は1Wから2W物を中心に、主に△0.075%～△0.050%の水準で出合いが見られた。
来週の主な予定は、国内では1-3月設備投資(1日)や、4月景気先行CI指数(5日)などがあり、海外では、ECB政策金利発表(4日)や、4月米雇用統計(5日)などがあげられる

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.01 ~ 0.00
TDB 3M	△0.140 ~ △0.095
現先(on/1w)	△0.04 ~ 0.00

＜C P＞

今週の入札発行総額は約8,200億円で、週間償還額(約1兆500億円)を下回った。発行市場は、月末の大量償還(約7,000億円)に対して新規発行は約6,000億円にとどまるなど、週を通して閑散であった。発行残高は、先週末の23兆8,477億円から28日時点では約24兆円と増加した模様。発行レートは、CP等買入オペの結果を受けやや上昇地合いとなった。26日に、CP等買入オペが予定通り8,000億円で実施された。結果は、按分落札レート△0.027%・平均落札レート△0.020%と、前回(按分レート△0.068%・平均落札レート△0.027%)比で大幅に上昇した。ディーラーの積極的な売却ニーズから、応札額は1兆9,452億円と過去最高となった。
来週の週間償還額は、約1,800億円となっている。発行市場は、5・10日発行での新規発行が見込まれるため、発行増が見込まれる。発行レートは、横ばい圏内の動きで浅いマイナス圏内の出合いを予想する。4日に、CP等買入オペが6,000億円でオファーされる予定となっている。

＜TDB＞

27日の6M910回債(11/25償還)の入札は、最高落札利回り△0.1607%(前回債△0.1435%)、平均落札利回り△0.1627%(同△0.1474%)となり、入札後△0.19%～△0.194%のレンジで取引された。また29日の3M911回債(8/31償還)の入札は、最高落札利回り△0.1002%(前回債△0.1102%)、平均落札利回り△0.1078%(同△0.1166%)となり、入札後△0.099%～△0.100%のレンジで取引された。そのほかセカンダリーでは3M909回債(8/24償還)が△0.115%、1Y908回債(5/20償還)が△0.195%～△0.198%、また7月償還物で△0.14%～△0.165%のレンジで出合いが散見された。

＜レポ＞

足許GC取引は週初△0.09%～△0.075%辺りでの出合い。週末にかけては、一時的にレートが△0.1%台前半に低下する場面も見られたが、利付2年および短期3M・6Mの発行日が重なった6月1日受渡しはレートが上昇し、△0.09%～△0.065%で取引された。SC取引では、2年401～412回債、5年137～143回債、10年336～358回債、20年164～172回債、30年59～66回債、40年9～12回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものではなく、今後予告なく変更されることがあります。